

淀川とワンド

淀川の舟運

淀川は、河川法上は琵琶湖から大阪湾までの全長75キロメートルをいうが、一般的にわれわれが淀川を指すとき、八幡の三川合流(桂川・宇治川・木津川)地点から大阪湾までの37キロメートルをいうことが多い。

淀川は古くから交通の要衝として栄え、江戸時代には三十石船(乗客定員28名程度、米を三十石積めることからそう呼ばれた)が京都伏見と大阪をつないで



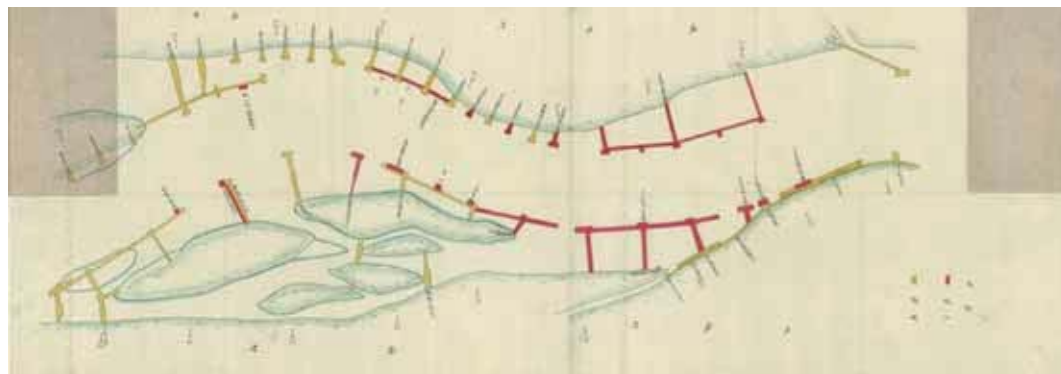
図■三十石船
資料提供：アダチ伝統木版画技術保存財団

そだちんしょう 粗朶沈床

粗朶(里山の雑木から伐採した木の枝)や下草を編んだものを何重にも積み重ね、その上に大きな石を載せ河岸から川の中央に向かって垂直に突き出した形で底に沈める工法。

図■粗朶水制

資料提供：淀川河川事務所



写真■淀川ワンド付近
平成21年(2009)6月24日の「まちあるき」にて

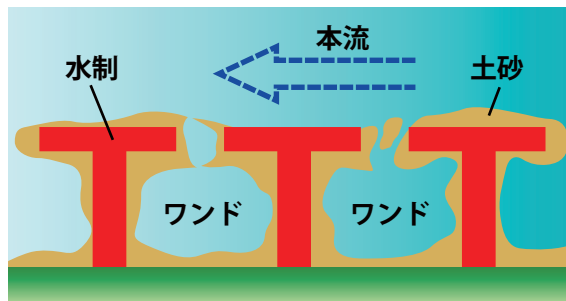
盛んに人と物資を運んでいた。明治時代に入り蒸気船が登場し、淀川の舟運は新しい時代に入った。

航路は大きな船が通れるように一定の水深を保つ必要があるため、オランダ人技師デ・レーケにより、土砂が堆積しない仕組みの水制工「粗朶沈床」がつけられた。

これにより水路を曲げて水の流れの速さを制御し、一定の水深(1.5メートル)を保つことができた。



写真■明治時代に登場した蒸気船
写真提供：淀川河川事務所



図■淀川ワンドの仕組み 資料提供：淀川河川事務所

城北ワンド

【ワンド】 河川改修の結果できた本流沿いにある水がたまっていて、本流とつながっているか、或いは増水すれば連なってしまふようなところをいい、本来水の力によって自然にできる「たまり」と区別されている。ワンドは淀川全体で55個あり、城北地区には19個が集中している。(平成21年(2009)3月)



写真■城北ワンド群 写真提供：淀川河川事務所

城北ワンドは、粗朶沈床による水制工事で囲まれたところに土や砂がたまり、その上に水際を好む木や草が茂り、結果としてワンドの形ができた。ワンドの水は地下で本流と行き来し、流れもおだやかで、池などに棲む魚にとっては都合が良く、水辺の植物の生えているところは魚の産卵や稚魚が暮らす絶好の棲み処となっている。

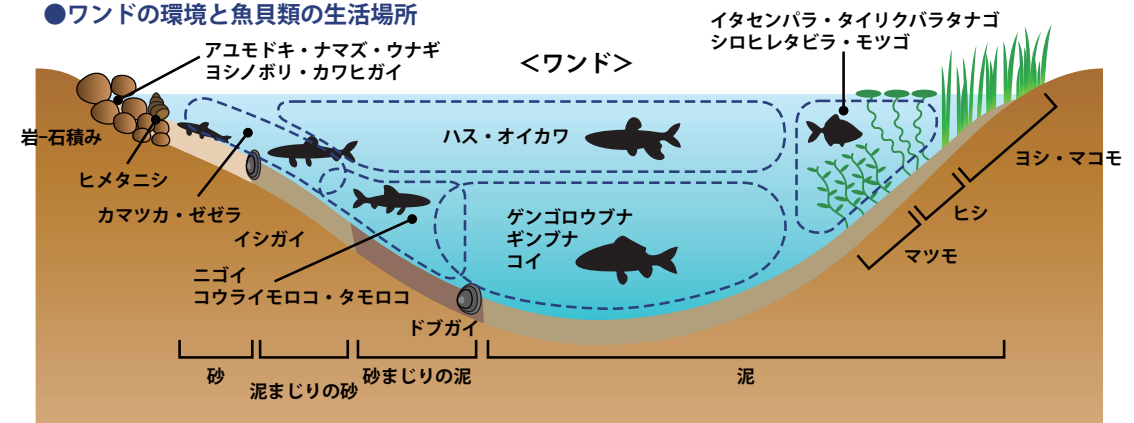
国の天然記念物・国内希少野生動物種に指定されているイタセンパラやアユモドキが息していたが、環境の変化(悪化)により最近のワンド調査では見つからなくなるほか、在来種が激減している。

淀川の生態系の象徴とされるイタセンパラは、淀川

河川事務所をはじめ関係団体・研究者により定期的に調査および観察が行われているが、平成17年(2005)に確認されたのを最後に、平成21年(2009)まで1匹も確認されなかった。

環境悪化の要因として、ブラックバスやブルーギルの外来肉食魚が放流され在来種が食べられてしまったこと、水位の上昇などによりワンドが深くなり産卵に適した浅場がなくなったこと、ここ数年来のボタンウキクサなど外来水草の異常繁殖やビニール袋などゴミが底に溜まったことにより、産卵場所としている二枚貝が育たなくなったことなどが原因と考えられている。

●ワンドの環境と魚貝類の生活場所



図■ワンドの環境と魚貝類の生活場所 資料提供：淀川河川事務所



写真■イタセンパラ

タナゴの仲間です。全長10センチメートル、体高が高く平べったい淡水魚で、二枚貝(イシガイ、ドブガイ)に産卵する。産卵期の雄は「婚姻色」と呼ばれる赤紫を基調とした美しい色に彩られる。

淀川資料館 枚方市新町2-2-13 TEL:(072)846-7131

淀川の歴史、役割、環境など、いろいろなことを知りたい方は、枚方市にある「淀川資料館」をぜひお訪ねください。<入館無料>